

2025年度第1四半期 決算説明会資料

鹿島建設株式会社

2025年8月6日



1	決算サマリー	P.03
2	業績ハイライト	P.04
3	事業別の概況	P.08
4	補足資料	P.15

第1四半期は、国内建設事業の総利益率向上が貢献し、連結・単体とも前年同期比**増収増益**過去最高となる通期連結当期純利益1,300億円の達成に向け順調に進捗

2025年度第1四半期決算実績

※第1四半期の連結業績として、売上高・売上総利益は過去最高

- 国内では、**土木・建築ともに売上総利益率が向上**し、連結・単体の前年同期比**増収増益**に大きく貢献。
- 単体建設事業の受注時採算について、**土木は安定的**に推移し、**建築は改善基調**が継続。
- 海外では、開発事業における物件売却が前年同期比減少したものの、**建設事業の収益性が着実に改善**。
- 国内建設需要は堅調な状況が継続。海外においては、米国や欧州などにおいて大型工事を受注。

2025年度通期見通し

- 国内建設事業は、建設コスト上昇に適切に対応しつつ、**売上総利益率の向上**を図る。
- 国内・海外開発事業における物件売却は、**下半期に増加**する見通し。
- 現時点では通期の連結業績予想を変更しないが、**更なる利益成長**を目指す。
- 海外事業や国内建設需要において、米国の通商政策による大きな影響はないと見込んでいる。

単体、関係会社の全てのセグメントにおいて利益が伸長し、連結・単体とも増収増益

単位: 億円

第1四半期 決算実績 ハイライト	連結			単体			国内関係会社			海外関係会社			
	2024年度 第1四半期	2025年度 第1四半期	前年同期比	2024年度 第1四半期	2025年度 第1四半期	前年同期比	2024年度 第1四半期	2025年度 第1四半期	前年同期比	2024年度 第1四半期	2025年度 第1四半期	前年同期比	
売上高	6,132	6,496	+363	3,307	3,695	+387	763	811	+47	2,310	2,288	△22	
営業利益	252	375	+122	188	267	+78	25	54	+28	41	58	+16	
経常利益	259	388	+129	260	352	+92	35	64	+29	17	36	+18	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	174	265	+90	195	263	+67	26	45	+18	6	20	+14	
建設受注高	5,548	5,206	△341	3,409	3,310	△98	551	489	△62	1,793	1,644	△149	
(為替レート)単位:US\$										¥151.41 (2024年3月末)			¥149.52 (2025年3月末)
				売上総利益率									
				2024年度 第1四半期			2025年度 第1四半期						
				土木			12.9%			17.0%			
				建築			9.7%			10.5%			
				建設計			10.7%			12.2%			

種 別	工事名称	発注者	工事場所
土木	(改)新京橋連結路八重洲地区開削トンネル工事	首都高速道路株式会社	東京都
土木	国道169号上池原トンネル他工事	国土交通省－近畿地方整備局	奈良県
土木	なにわ筋線南海新難波分岐T及び 千日前通シールドT土木工事(本体工事)	関西高速鉄道株式会社	大阪府
建築	(仮称)精華町光台二丁目計画新築工事建築工事	関西電力サイラスワンOSK1合同会社	京都府
建築	(仮称)YBPラボオフィス新築工事	野村不動産株式会社	神奈川県
建築	県民会館・NPOプラザ複合施設新築工事	宮城県	宮城県
建築	名古屋市立大学滝子キャンパス第1期整備工事	公立大学法人名古屋市立大学	愛知県
建築	(仮称)新砂一丁目計画新築工事	三井不動産株式会社	東京都
海外	ジャクソンビルバプティスト病院 救急外来棟増築および改修工事※1	Southern Baptist Hospital of Florida, Inc	米国

※1はカジマ ユー エス エー インコーポレーテッドの受注工事

通期予想は変更しないが、更なる利益成長を目指す

単位: 億円

2025年度 業績予想 ハイライト	連結			単体			国内関係会社			海外関係会社		
	2025年度 第1四半期	2025年度 通期予想	進捗率	2025年度 第1四半期	2025年度 通期予想	進捗率	2025年度 第1四半期	2025年度 通期予想	進捗率	2025年度 第1四半期	2025年度 通期予想	進捗率
売上高	6,496	29,500	22.0%	3,695	15,700	23.5%	811	3,900	20.8%	2,288	11,000	20.8%
営業利益	375	1,590	23.6%	267	1,110	24.1%	54	243	22.4%	58	250	23.3%
経常利益	388	1,660	23.4%	352	1,200	29.4%	64	280	23.1%	36	290	12.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	265	1,300	20.4%	263	980	26.9%	45	200	22.8%	20	220	9.4%
建設受注高	5,206	23,300	22.3%	3,310	14,300	23.1%	489	2,000	24.5%	1,644	8,000	20.6%
(為替レート)単位: US \$				売上総利益率								
¥149.52 (2025年3月末)				2025年度 第1四半期			2025年度 通期予想			¥149.52 (2025年3月末)		
				¥145.00						¥145.00		
				土木			17.0%			17.5%		
				建築			10.5%			9.7%		
				建設計			12.2%			11.8%		

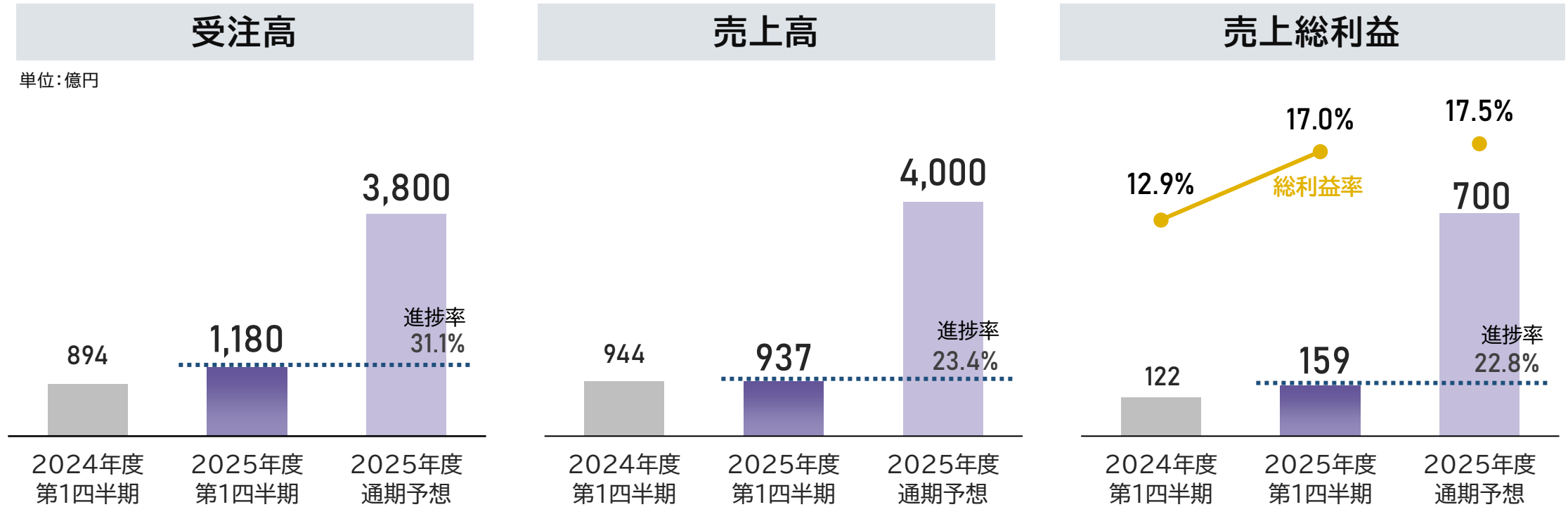
- 建設事業は、国内・海外とも建設コスト上昇リスクに適切に対応しつつ、予想を上回る利益水準を目指す。
- 開発事業については、国内では首都圏のオフィスビル、海外では米国の流通倉庫や欧州の再生可能エネルギー発電施設などの売却を計画しており、売上高・利益が下半期に増加する見通し。

単位:億円

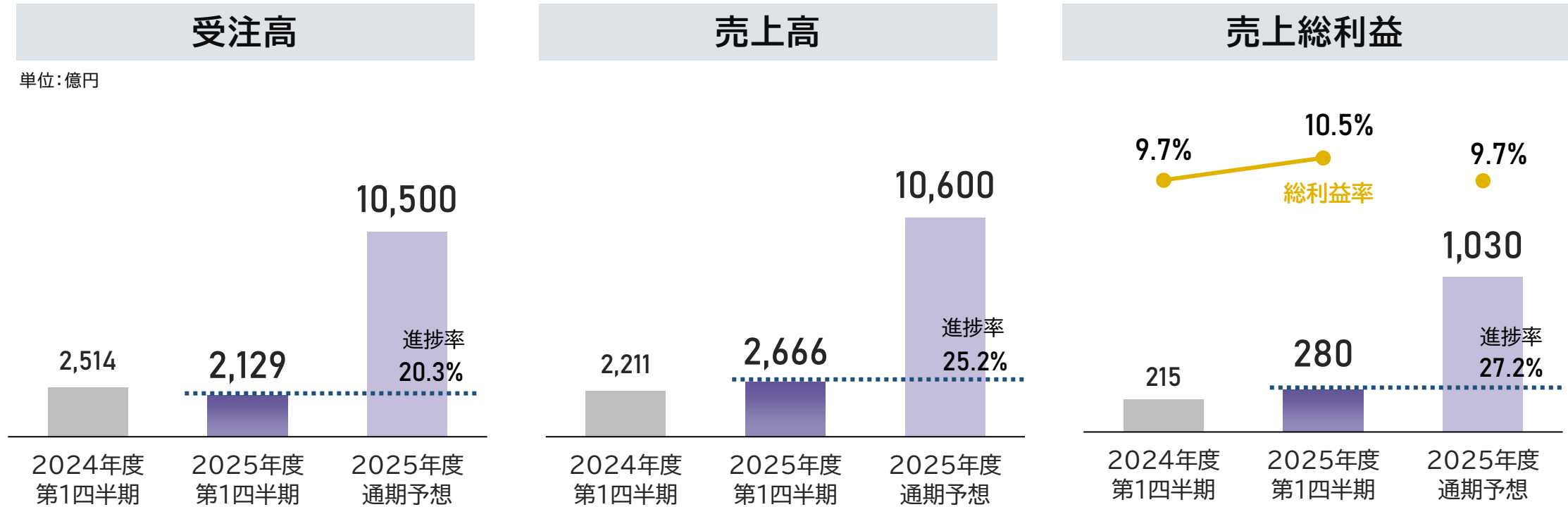
	連 結			
	2024年度実績	2025年度予想	増減額	増減率
売上高	29,118	29,500	+381	1.3%
建設事業	25,110	24,800	△310	△1.2%
開発事業等	4,008	4,700	+691	17.3%
売上総利益	3,231 11.1%	3,310 11.2%	+78	2.4%
建設事業	2,292 9.1%	2,450 9.9%	+157	6.9%
開発事業等	939 23.4%	860 18.3%	△79	△8.4%
営業利益	1,518 5.2%	1,590 5.4%	+71	4.7%
経常利益	1,606 5.5%	1,660 5.6%	+53	3.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,258 4.3%	1,300 4.4%	+41	3.3%
国内関係会社	162 4.6%	200 5.1%	+37	22.7%
海外関係会社	157 1.4%	220 2.0%	+62	40.0%
為替レート 単位:US\$ ¥158.18 ¥145.00				
建設受注高	26,245	23,300	△2,945	△11.2%
国内	18,608	15,200	△3,408	△18.3%
海外	7,637	8,100	+462	6.1%

	単 体			
	2024年度実績	2025年度予想	増減額	増減率
売上高	15,600	15,700	+99	0.6%
建設事業	14,576	14,600	+23	0.2%
(土木)	4,041	4,000	△41	△1.0%
(建築)	10,534	10,600	+65	0.6%
開発事業等	1,023	1,100	+76	7.4%
売上総利益	1,949 12.5%	1,960 12.5%	+10	0.5%
建設事業	1,633 11.2%	1,730 11.8%	+96	5.9%
(土木)	620 15.4%	700 17.5%	+79	12.8%
(建築)	1,013 9.6%	1,030 9.7%	+16	1.7%
開発事業等	315 30.8%	230 20.9%	△85	△27.1%
営業利益	1,147 7.4%	1,110 7.1%	△37	△3.3%
経常利益	1,269 8.1%	1,200 7.6%	△69	△5.5%
当期純利益	1,047 6.7%	980 6.2%	△67	△6.4%
建設受注高	17,735	14,300	△3,435	△19.4%
土木	4,388	3,800	△588	△13.4%
建築	13,346	10,500	△2,846	△21.3%

(注)2025年5月14日に発表した2025年度予想は変更していない



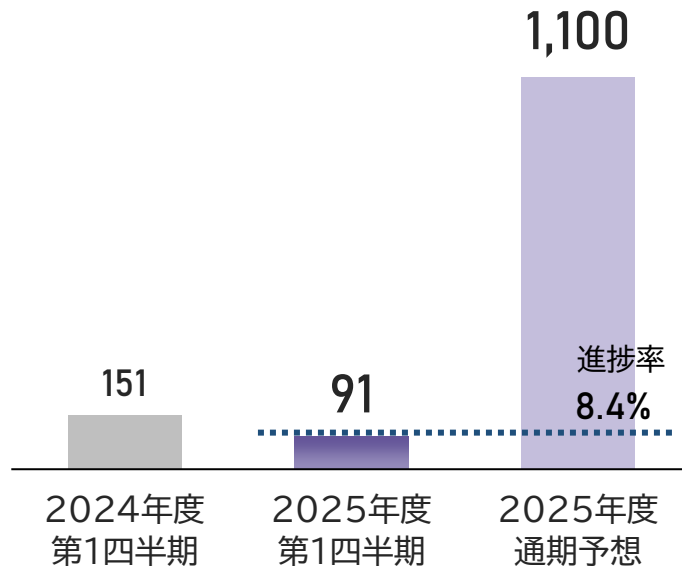
- 受注高は、第1四半期に道路や鉄道などの大型工事を受注し、前年同期を上回った。通期予想に対して順調に進捗。受注時採算は安定的に推移。
- 大型工事の施工が最盛期を迎え、売上高・利益に大きく貢献。売上高は、前年同期と概ね同水準を確保。売上総利益率は前年同期比で4.1pt向上し、売上総利益は増益。
- 大型工事を中心に施工を着実に進めるとともに、施工中工事の追加変更契約の獲得を図り、まずは通期予想の達成を目指す。



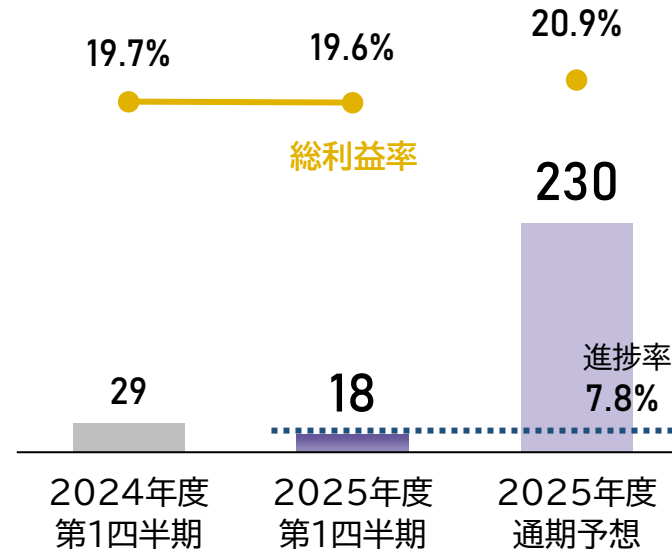
- 受注高は前年同期を下回っているものの、データセンターやレンタルラボオフィスなど、需要が拡大している分野において大型工事を受注。受注時採算は改善基調が継続。
- 売上高、売上総利益は、今年度に竣工を迎える大型案件の順調な進捗や利益率向上が寄与し、前年同期比増収増益。売上総利益率は10.5%となり、第1四半期としては近年の実績を上回る順調なスタートとなった。
- 建設コストの上昇リスクは依然として残るものの、今後もリスク管理を徹底し、通期予想を上回る売上高、売上総利益を目指す。

売上高

単位: 億円

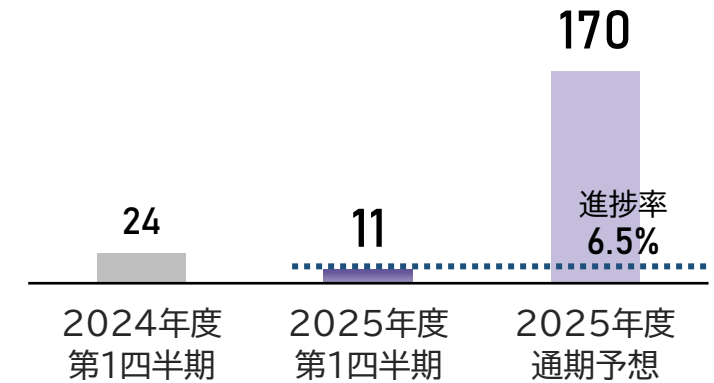


売上総利益



国内開発事業四半期純利益

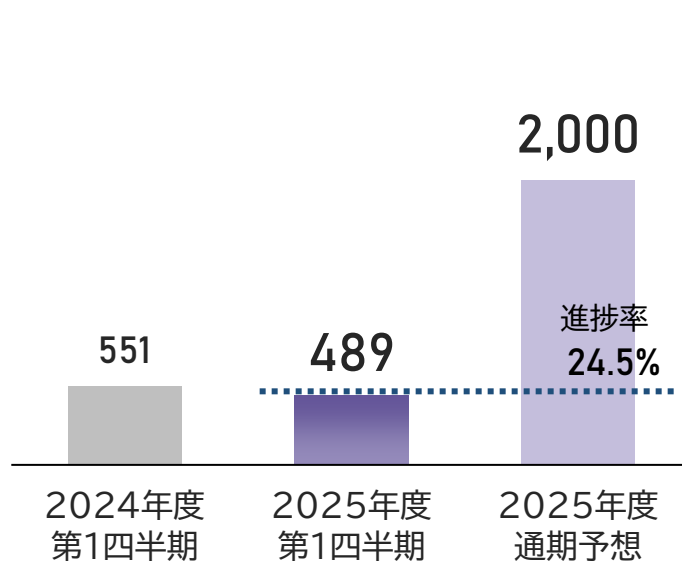
※鹿島単体の開発事業と開発系国内関係会社の四半期純利益を合算した経営管理数値



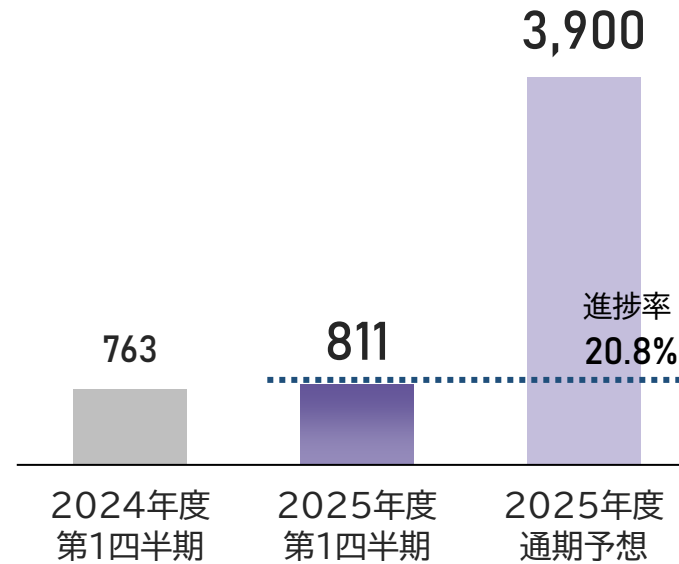
- ・開発事業における物件売却がなく、売上高、売上総利益は前年同期を下回った。賃貸事業については堅調に推移。
- ・単体及び開発系関係会社において、下半期に首都圏のオフィスなど複数物件の売却を計画しており、国内開発事業当期純利益は、通期予想170億円の達成を見込んでいる。

建設受注高

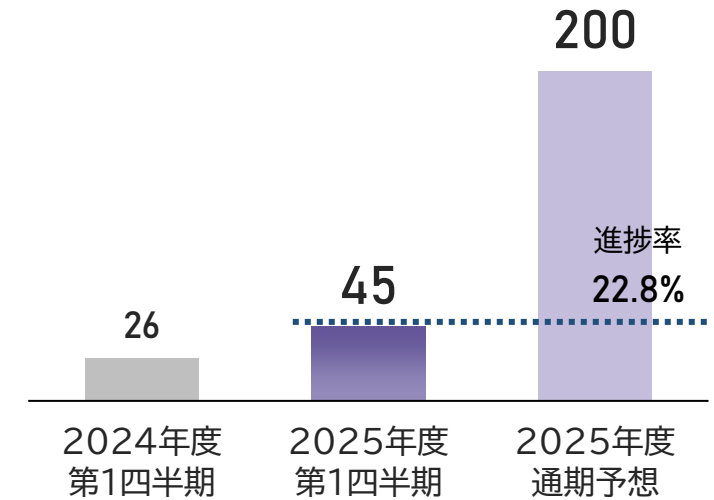
単位: 億円



売上高



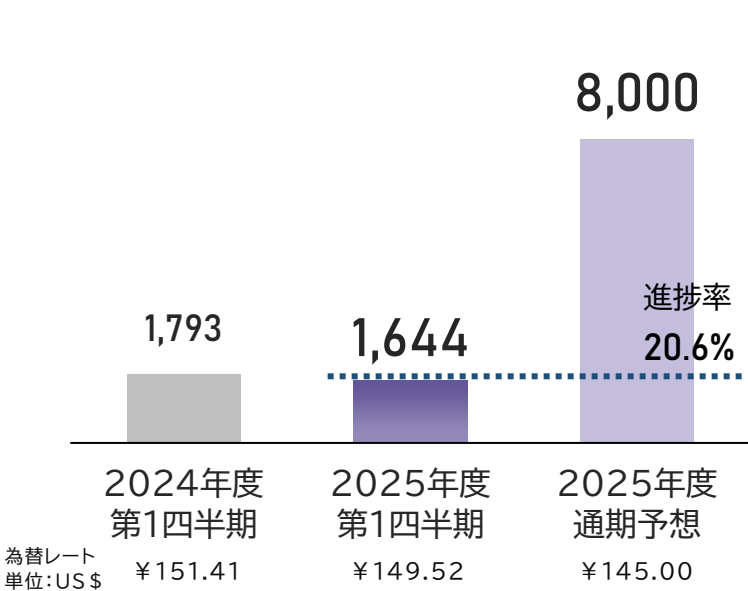
四半期純利益



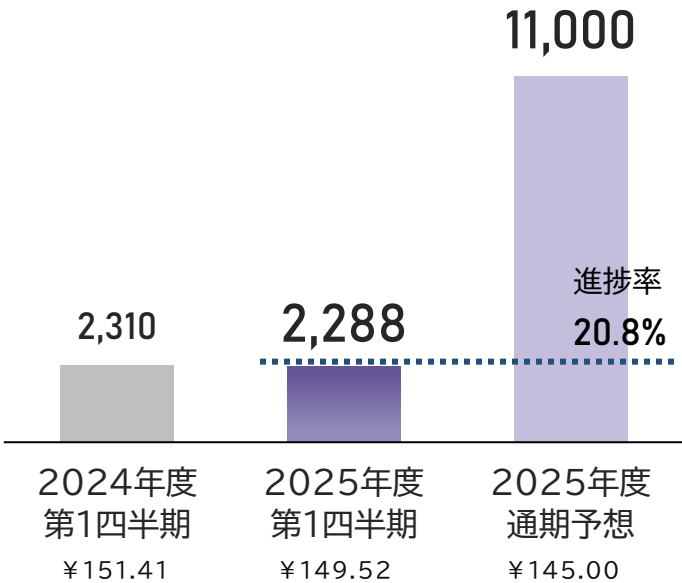
- 建設受注高は、前年同期を下回ったものの、通期予想に対して概ね順調に進捗。
- 売上高、四半期純利益は、建設系関係会社の手持ち工事が順調に進捗したことから、前年同期比増収増益。
- 建設系関係会社の堅調な業績に加え、下半期に計画している開発系関係会社の物件売却を着実に実現することにより、通期予想の売上高、当期純利益の達成を見込んでいる。

建設受注高

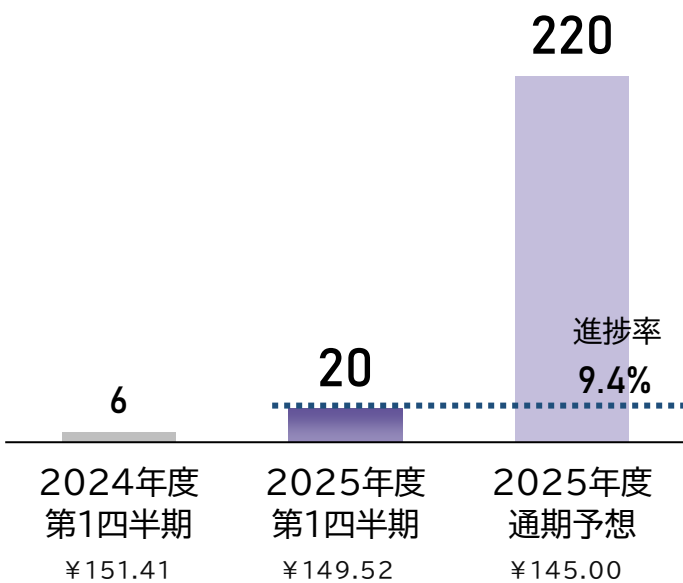
単位: 億円



売上高



四半期純利益



- 建設受注高は、前年同期比で減少したものの、米国や欧州などにおいて大型工事を受注。
- 東南アジアを中心に手持ち工事が順調に進捗し、売上高は前年同期と概ね同水準を維持。
- 東南アジアや欧州における追加収入獲得などにより建設事業の利益が向上し、四半期純利益は前年同期比増益。
- 米国流通倉庫や欧州再生可能エネルギー発電施設など、各地域における開発物件の売却が下半期に増加する見込みであり、通期予想の当期純利益220億円の達成を目指す。

建設等・開発事業別 業績ハイライト ※事業別の数値については内部取引前の管理数値

単位: 億円

	建設事業等					開発事業				
	2024年度 第1四半期	2025年度 第1四半期	前年同期比	2025年度 通期予想	前年度比	2024年度 第1四半期	2025年度 第1四半期	前年同期比	2025年度 通期予想	前年度比
売上高	2,042	2,168	125	8,799	△692	290	121	△168	2,239	+517
売上総利益	75	142	66	426	+24	85	38	△47	417	△26
	3.7%	6.6%	+2.9pt	4.8%	+0.6pt	29.4%	31.3%	+1.9pt	18.7%	△7.1 pt
営業利益	△0	64	64	71	+47	43	△3	△46	207	△14
営業外損益	8	11	2	12	△34	△22	△26	△4	75	+66
経常利益	8	75	66	83	+12	20	△30	△50	283	+52
特別損益	1	0	△1	0	△1	2	0	△2	38	+6
親会社株主に帰属する 当期純利益	7	57	49	58	△3	8	△29	△38	218	+70
(為替レート)単位: US \$	¥151.41 (2024年3月末)	¥149.52 (2025年3月末)		¥145.00		¥151.41 (2024年3月末)	¥149.52 (2025年3月末)		¥145.00	

- 建設事業等は、東南アジアや欧州における追加収入獲得などによる損益向上を主因に、前年同期比増収増益。通期予想は据え置いているものの、第2四半期以降も堅調な業績を確保し、予想を上回る利益水準を目指す。
- 開発事業は、米国における物件売却が減少し、前年同期比減収減益。下半期に予定している流通倉庫や再生可能エネルギー発電施設などの売却により、通期予想の売上高、利益の達成を目指す。

地域別の開発事業概要

地 域	開発事業の特性	主力事業 [事業会社・施設名等]	事業形態※	利益計上科目※	現 況
米 国	短期回転型の 販売事業が中心	流通倉庫 [Core5]	販売事業 オンバランス	売上総利益 営業利益	- 開発・運営中は44件。2025年度は15件程度の売却を計画。 - 第1四半期の売却実績は無く、新規着手は1件。 - 売却の多くを下半期に予定しており、既に複数物件の売買手続きが進展。
		賃貸集合住宅 [フラワノイ、BCDC]	販売事業 オフバランス	営業外収益 [開発事業出資利益]	- 開発・運営中は49件。2025年度は10件程度の売却を計画。 - 運営中物件のリーシングは堅調であり、90%程度の契約率で稼働中。
欧 州	短期回転型の 販売事業が中心	流通倉庫 [KPE]	販売事業 オフバランス	営業外収益 [持分法投資利益]	- 欧州6か国に事業展開。開発・運営中は14件。 - リーシングが完了した物件もあり、2025年度は複数物件を売却する見通し。
		【ポーランド】 再生エネルギー発電施設 [PAD-RES]	販売事業 オフバランス	営業外収益 [持分法投資利益]	- 太陽光発電施設を中心に18件(発電総量約1,300MW)を開発・計画中。 2025年度に物件売却、持ち分売却をそれぞれ計画。
アジア	長期保有型の 賃貸事業が中心 販売事業も強化中	【インドネシア】 複合施設運営 [スナヤン(ジャカルタ)]	賃貸事業 オンバランス	売上総利益 営業利益	- ホテルの稼働状況はコロナ禍による低迷から回復。 - 改修工事が完了した賃貸住宅棟は、契約率が着実に向上。
		【ベトナム】 ホテル・貸工場等 [インドチャイナ・カジマ]	販売事業 オンバランス	売上総利益 営業利益	- 開発・運営・計画中は17件。Core5ブランドの貸工場など産業系不動産の開発を強化。 2025年度は物件売却、持分売却をそれぞれ計画。

※ プロジェクトによって事業形態が異なり、利益計上科目も異なるケースがある。

連結当期純利益

2025年度 **1,300** 億円
(過去最高益更新、5期連続増収増益)

2026年度 **1,300** 億円以上
(2025年度から更に増益)

- 中計3年間の連結当期純利益は**400億円程度増加**する見通し

ROE

継続的に**10%**を上回る水準

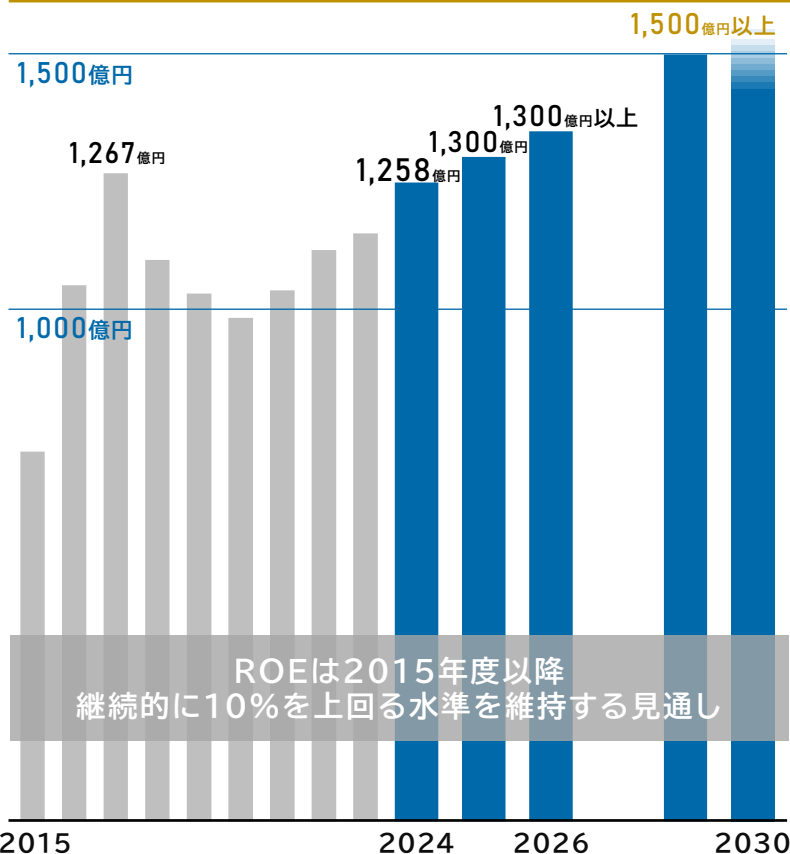
2024年度実績 **10.2%**

ガバナンス・IR

- 役員報酬の評価指標に**ROE**を採用
- 情報開示や投資家・市場との対話の強化を継続

連結当期純利益

「2030年度の連結当期純利益目標**1,500億円以上**」
の前倒し達成を目指す



キャッシュアロケーション (2024-2026年度累計)



成長投資

1兆2,700 億円程度

- 人的資本への投資を拡充
- 利益成長による資金を活用し、当初計画比**700億円程度増加**

株主還元

- 配当性向の目安は**40%**を継続
- 資本効率向上と株主還元充実のため、自己株式取得を継続(2025年度は**200億円**を実施)
- 中計3年間の還元額は**300億円程度増加**する見通し

政策保有株式縮減

- 縮減目標(連結純資産の**20%未満**)を**2024年度末に前倒しで達成**
- 3年間の売却額 **700億円程度**(当初計画比**200億円程度増加**)

※為替レートは2024年度158.18円/1US\$。2025年度以降は145円/1US\$程度を想定。
※2024年度までの連結当期純利益の最高額は2017年度の1,267億円。

株主還元方針

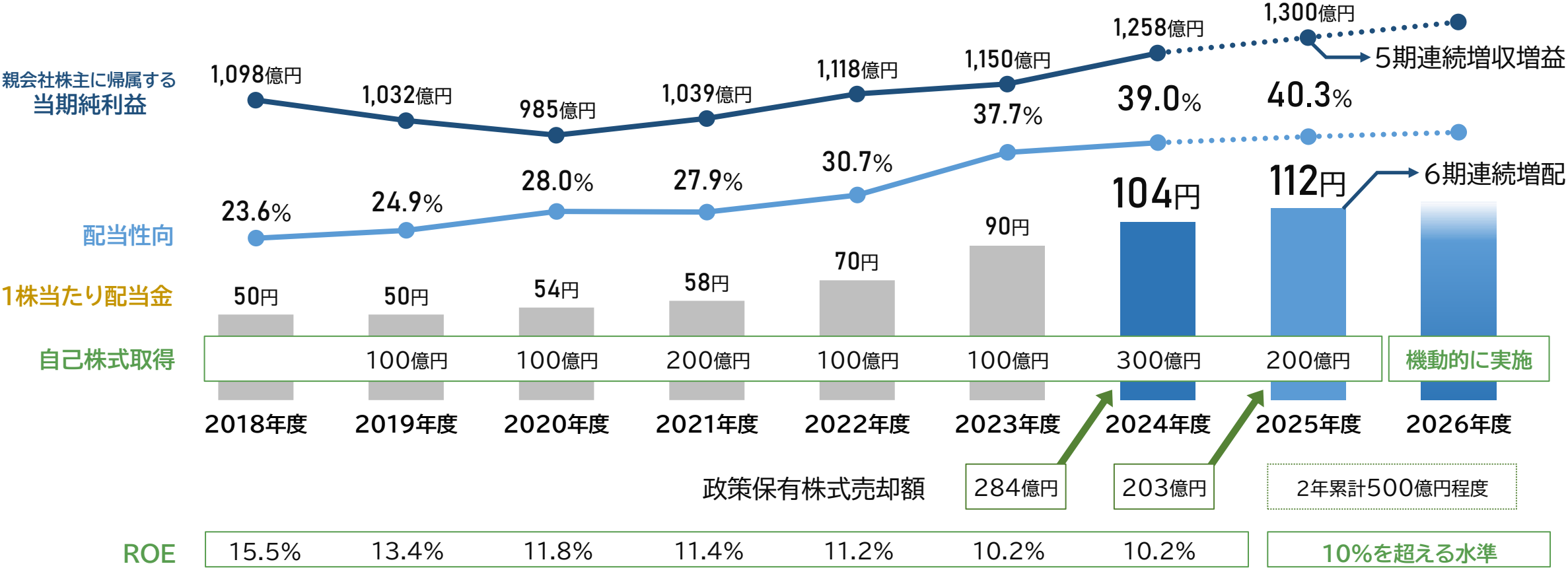
配当性向40%を目安とした配当を実施するとともに、業績、財務状況及び経営環境を勘案し、自己株式の取得など機動的な株主還元を行う。

配 当

利益成長に連動した配当金の引き上げを目指す。

自己株式
取 得

資本効率の向上と株主還元の充実のため継続。
当面は、政策保有株式の売却実績額をベースとして機動的に実施。





お問合せ先

鹿島建設株式会社 経営企画部
コーポレート・コミュニケーショングループ
E-Mail : ir@ml.kajima.com

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。